

討論メモ

「世界経済フォーラム (WORLD ECONOMIC FORUM, WEF) とは何か」

令和 6年9月17日

森田晃司

1. 今月は、ダボス会議などで有名な頭書のフォーラムの目指す方向、とりわけ、近年、同フォーラムが力説している“資本主義のリセット”、および、八大予測の示唆するものは何かについて考えてみました。

森田から WEF について、

- ① . 1971 年にユダヤ系経済学者クラウス・シュワブによってスイスに本部を置いて設立された。
 - ② ダボス会議には世界の政官財の指導者が招かれ、各種会合が行われ、世界に絶大な影響力を持っている。
 - ③ また、各種研究報告を行い、国際競争力ランキングやジェンダーギャップランキングなどを発表して、グローバリズムの広報機関の役割を務めている。
- などの説明があった。

さらに、国際金融グループの影響下にある WEF の提唱する「株主資本主義」から「ステークホルダー資本主義」へのグレートリセットと

は何を目指しているのか。

WEF が 2030 年に実現を目指す八大予測の意図するものは何か。

との問いかけがあった。

2 次いで、出席者 6 名による討論を行い、下記のような意見が出された。

- ・グレートリセットの目指す「ステークホルダー資本主義」とはどんなものか？

- ・株主に偏重した現在の経営よりも、すべての関係者にとってプラスになる経営が期待できる。

- ・しかし、国、および、国民に代わって、大企業がすべての面での決定権を握ってしまう恐れもある。

- ・かつて、鳥海さんが「人本主義」の経営が大事と仰っていた。

- ・大企業と下請けの関係なども問われる。

- ・資本主義は大航海時代の一攫千金から始まっている、人にやさしい経営などは期待できないのではないか。

- ・近江商人は “三方良し” の経営を目指していた。

- ・現状では、経営者は株主総会で選ばれるので、株主重視の経営にな

らざるを得ないのではないか。

- ・資金に余裕があれば、非上場を目指すべきだ。

- ・かつて、株式の持ち合いをやって安定株主を増やしていた。日本政府は、外資導入のためにこれを抑制してきたが、今も抑制策を続けている。

- ・この30年で外資比率は5%弱から約40%まで急増している。政府政策も外資の思惑に左右されている。

- ・8大予測の“何も所有しない。政府が貸与する。” というのでは、人は働かなくなるのではないか。

- ・プライバシーのない、極端に貧しい生活になりそうだ。

- ・人生のすべてを国ないし大企業に握られることになる。

- ・今はやりのベーシックインカムはこの施策の予備段階か？

- ・臓器を移植でなく、印刷で作るという予測もあるが、臓器も人工で作れる時代が来るのだろうか。

- ・肉の消費を減らすのは良いとして、こうろぎなど昆虫を食べるのは嫌だ。

- ・ビル・ゲイツは培養肉の開発に巨額の資金を投入している、また、米国一の農地持ちともいわれている。遺伝子作物の生産を意図している。

・日本は米不足などで騒いでいるが、穀物自給率は28%。食の安全保障は全くできていない。

・欧米では移民難民で騒いでいるが、欧米がアフリカ、中東、ウクライナなどで混乱を起こし難民を作り出している。難民が出るもとを正さねば、問題は解決しない。

・日本も実質の移民が急増している。既に労働者などを中心に3百万人に達している。

・朝鮮半島有事の際には大量の難民発生恐れもある。

・石化燃料の消費を抑えるのは良い方向だ。

・ただし、太陽光や風力に偏らずに、エネルギー確保の政策を進めるべきだ。安全性の高い小型原発の開発、地熱も有望だ。

・既存のダムを10Mかさ上げすれば、現在の倍の水力エネルギーを確保できるという研究もある。

・米国の一極支配は終わる方向だ。ウクライナ戦争に於けるロシア向け経済制裁を見ても、従うのは欧米に日本・韓国だけ。BRICSはじめ各国は独自の道を歩み始めている。

・西洋の物質中心の価値観は行き詰まっている。変化の時代に入っている。

以上